

高野 新聞

Vol.85



たかの
高野 たけし

無所属 44歳

逗子市議会議員（4期）

- ・教育民生常任委員会委員長
- ・議会運営委員会委員
- ・議会活性化推進協議会委員
- ・都市計画審議会委員

高野たけしの活動報告

～住みやすいまちづくりに向けて～

12月2日～16日の日程で、平成28年第4回定例会が開催されました。今定例会においても、市民の皆様から頂いたご意見、ご要望をもとに一般質問を行いました。（以下に一部掲載）

◆市民ニーズに合わせた整備を提案

現在、市内には4ヶ所の有料駐輪場が整備されていますが、どこも利用者が多く、定期利用を実施している3駐輪場全てにおいて待機者が出ているほどです。特にJR逗子駅西駐輪場においては480台の自転車が駐輪できますが、現在133人の方が待機している現状にあることから、待機者解消を目的に駐輪台数を増やすための整備をすべき旨提案いたしました。

これに対し市長からは、来年度当該駐輪場の空きスペースを活用して、自転車の駐輪台数を増やすための整備を行っていくとの回答がありました。

また、平成5年に開設されたJR逗子駅西駐輪場は老朽化が進み、錆び付いて破損してしまったラックも出てきています。さらに、電動自転車の普及に伴い、現在のラックに収納できない自転車も増えているとのこと。こうした現状に合わせて、計画を立てた上で順次改修に当たるべき旨提言したところ、予算の確保等課題も多いが、計画の策定に向けては検討していくとの答弁が担当部長よりあったところです。

利用者の利便性を第一に考えた駐輪場となるよう、引き続き対応していきたいと考えています。



政治資金の残り

あと 87,598円

（10/1～11/30の内訳）

収入… 0円

支出… 0円

◆ソフト面の仕組みづくりが今後の課題

池子の森自然公園は平成27年2月1日にスポーツエリアが、平成28年3月19日には自然エリアがオープンし（土・日・休日限定）、多くの人が集う場所となっています。

この池子の森自然公園をさらに利活用していただくために、スポーツエリアにおいては共用使用の日を設け、個人や家族連れ、グループなどで自由にスポーツを楽しむ機会の提供を、自然エリアにおいては自然と親しむためのソフト面での仕組みづくりの構築を提案いたしました。

市長からは、市民サポーターにも協力してもらいながら、有効に利活用できる仕組みを構築していく旨の回答がありました。



◆教育のICT化を推進

ここ数年、全国の小中学校の教育現場でもICT機器の活用が進んできています。特にタブレット端末の導入は顕著で、昨年度文科省が公立の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校を対象に行った調査では、タブレット端末の導入台数は25万3,755台であったとの結果も出ています。これは平成25年度に行った同様の調査結果の3.5倍の数字とのこと。

すでにタブレット端末を導入している学校では、映像やカメラ、ネットワークなどを活用した授業が行われ、児童生徒からもわかりやすいとの声が上がっているとも聞き及んでいます。また、部活動に活用している学校もあり、技術や戦術などを指導するのに役立っているとのこと。

そこで、本市の各小中学校にも無線LANを整備し、特別支援学級の未整備校、及び普通学級にもタブレット端末の導入を進めていくべき旨提案したところ、特別支援学級の未整備校には来年度に、普通学級には無線LANの整備が整った段階での導入を検討していくとの回答が教育長よりありました。

視察報告 ～健康増進策～

健康増進策を視察させていただくため、教育民生常任委員会のメンバーと沖縄県宜野湾市を訪問。

宜野湾市の平均寿命は男性が80.1歳、女性が87.4歳で、共に全国平均(男性:79.59歳、女性:86.35歳)を上回っていましたが(平成22年度調査)、健康で自立した生活を送っている健康寿命においては男性が77.10歳、女性が81.23歳と全国平均(男性:78.17歳、女性:83.16歳)を下回っていました。

また、40歳～64歳を対象に行った肥満調査では男性が43.1%、女性が30.1%と非常に高かったことから、『健康ぎのわん21』を作成し、健康寿命の延伸を目指した様々な取り組みを行っています。中でも力を入れているのが、肥満解消に有効な筋肉運動を取り入れた宜野湾市オリジナルの『美らがんじゅう体操』で、生活習慣病を予防することを目的に老人センターをはじめ市内各所のイベントで普及活動を行っているとのことでした。

私達も体験してみたのですが、動きが多岐にわたり、体の多くの筋肉を使っていることを実感。ちなみに、4分30秒の体操でエネルギー消費量は25キロカロリーとのことでした。



他にも、運動習慣の定着を目的とした『ウォーキングMAP』を作成。市内を一周する13.8Kmのコースの他、市内4カ所の地域にそれぞれ2Km～5Kmのコースを設定したMAPを市民に配布し、運動機会の充実を促進しています。

また、宜野湾市では、高齢者の閉じこもり防止と地域活動や趣味、文化活動等の社会参加の機会を増やすことを目的に、平成19年6月より宜野湾市シルバーパスポート事業を実施。市内在住の65歳以上の方に配布されるシルバーパスポートを利用すると、公共施設利用料の免除や減免が受けられます。さらに75歳以上の方には体力づくり関連事業所や協力事業所で使えるクーポン券も配布されますが、いずれも好評で利用率は年々伸びているとのことでした。

本市においても高齢化率が31%を超えており、健康増進策の拡充が重要施策の一つと言えることから、宜野湾市の取り組みも参考に新たな方策を行政当局に提言していければと考えています。

Topics

◆進出予定病院が決定!!

神奈川県が横須賀・三浦二次保健医療圏で175床の病床割り当て申請手続きを行うことになったため、沼間3丁目の旧6小用地への総合的病院の誘致を進めていましたが、公募(平成28年10月4日～11月18日)に応募した2法人に対する選考委員会の審査を経て、庁内での政策会議を行った結果、医療法人社団葵会に決定いたしました。

当病院の進出計画によれば、地上3階・地下1階、延べ床面積18,456.26㎡の病院で、診療科目は12科目(内科、循環器科、小児科、外科、脳神経外科、整形外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、リハビリテーション科)とのこと。病床数は、平成28年度の申請で175床(一般病床45床、回復期リハビリテーション病床40床、地域包括ケア病床90床)を確保し、平成30年度に75床の追加割り当てを受け250床に(高さ制限の緩和があれば300床に増床)したいとの考えも。

また、二次救急医療においては三浦半島地域病院群輪番制に参加(内科、外科、小児科)するとともに、現在逗葉地域医療センターで行っている一次救急においても補完していくとしています。

さらに、現在市が体制作りを進めている在宅医療に関しても、後方支援病院としての役割を担っていきたいとしています。

今後の流れとしては、病院側が神奈川県へ提出した病床申請に基づき175床の病床割り当てを受けた上で、平成30年度からの新たな申請で追加病床数の確保を目指すこととなります。病床の確保にあたっては長期の時間を要することから、病床の確保と並行して都市計画手続き等も行い、早ければ平成32年度中に病院が開設されるとのことでした。

開設までには複数のハードルが残されていますが、これらをしっかりとクリアし、地域医療を支える総合的病院として開設されることを期待しています。

あなたの声を高野たけしへ

市政に関するご意見、ご要望等がありましたらお寄せ下さい。



Tel / Fax: 046-871-7368

E-mail: takano_zushi@yahoo.co.jp